

# 古くて新しい胃腸薬「三光丸」の伝統を守り続ける老舗企業

株式会社 三光丸本店 奈良県御所市

後醍醐天皇が名付け親とされる、約 700 年もの歴史をもつ胃腸薬「三光丸」。生薬ならではの、ゆるやかで確実な効き目と、胃腸自体の治癒力を高める自然の力が評価され、常備薬として全国で家庭で愛されている。その製造元が老舗企業の株式会社三光丸本店である。

配置員の集合体として百年以上の歴史を持つ「三光丸同盟会」を組織するとともに、最近では営業力の手薄な県庁所在地などに直営の営業拠点を設け、三光丸の普及および販売増加に力を入れている。

## 会社概要



会社名：株式会社 三光丸本店  
 所在地：奈良県御所市今住 700-1  
 電話：0745-67-0003（代）  
 F A X：0745-67-9003  
 創業：元応年間（1319～21）  
 設立：昭和 22 年 2 月  
 代表者：代表取締役社長 米田徳七郎  
 資本金：4,800 万円  
 従業員：27 名  
 事業内容：医薬品製造  
 URL：<http://www.sankogan.co.jp/>  
 E-mail:[info@sankogan.co.jp](mailto:info@sankogan.co.jp)

## 約 700 年の歴史を刻む「三光丸」

奈良県御所市・高取町一帯は、日本文化の発祥の地であるとともに、和漢薬のふるさととしてもよく知られている。この昔ながらの街の一角に、大和家庭薬の中でも老舗中の老舗といわれる、約 700 年もの歴史をもつ胃腸薬「三光丸」の製造元、株式会社三光丸本店がある。

三光丸は、鎌倉時代後期、元応年間（1319～21）には、「紫微垣丸<sup>しびえんがん</sup>」という名で作られていた。「三光丸」と名前を変えたのは、1336 年頃と言われており、名付け親は吉野に移り南朝を立てた後醍醐天皇とされている。

「三光」とは、太陽・月・星のことで、宇宙に通じる薬と言う意味。現在も使われているシンボルマークは、太陽・月・星を表したもので、明治 27 年、31 代目米田徳七郎虎義氏が、健康を示す赤色で着色して登録、現在に至っている。

## 古くて新しい「三光丸」の良さを現代に活かす

三光丸は、一般に「置き薬屋さん」といわれる配置員を通して、独特の形式で販売される配置家庭薬である。三光丸には、センブリ、オウバク、ケイヒ、カンゾウ、薬用炭の 5 種類の生薬<sup>しょうやく</sup>（自然の山野に自生する草根木皮のうち、薬物として効き目があるもの）が配合されており、これら生薬の相互作用・相乗効果で、胃弱・食べ過ぎ・食欲不振・もたれ・胸やけ・吐き気などの症状を改善する。生薬ならではの、ゆるやかで確実な効き目と、胃腸自体の治癒力を高める自然の力が評価され、常備薬として全国で家庭で愛されている。

米田社長は「三光丸は、古くて新しい胃腸薬としてご愛用いただいています」と、長寿命を誇る三光丸のメリットを二点あげている。「昔は下痢・腹痛に効くとして重用されてきましたが、殆ど処



胃腸薬「三光丸」

方は同じながらも、最近では現代人のストレスから来る胃腸障害に効くとしてご愛用いただいております。即効性もあり、継続的に服用していただくと体質改善にもつながります。また『先用後利』のシステムは現代のクレジットとリースの良さを一つにしたシステムと言えるものです」

「先用後利」は、顧客に配置薬を必要に応じて使用していただき、次回訪問時に使用分だけ代金を受け取り、補充して帰るというもので、顧客を合理的・継続的にフォローすることができる。

### 全国県庁所在地などを自ら開拓し、販売を強化

同社では、約 250 の配置販売業者、約 600 人の配置員が配置先の都道府県知事の免許を受け、全国 100 万世帯を年 2~4 回の割合で回商している。

配置員の集合体として百年以上の歴史を持つ「三光丸同盟会」を組織化し、「先用後利」のシステムを基本に、テリトリー（割り当て地域）制や交換分合制など独自のアイデアを加え、配置員と顧客双方に喜ばれるシステムにつくり上げ、それを厳格に守り続けている。

更に、関連法人の(株)三光丸配置研修部に 100 人を超える配置員を擁し、若手配置員の育成とともに、同盟会の配置販売業者と競合しない県庁所在地などに直営の営業拠点を構え、三光丸の普及に力を入れており、今では同社の売上に大きく貢献している。

### 薬草と配置薬のミュージアム「三光丸クスリ資料館」

本社社屋の隣に、薬草と配置薬のミュージアム「三光丸クスリ資料館」（入場無料）がある。同資料館は、薬に関する貴重な資料の散逸を防ぐとともに、薬の生きた歴史や文化を再認識してもらう機会を提供する目的で建てられたもので、設立後、三光丸本店が所有する資料以外にも、同業者、得意先より多数の資料が寄贈され続けている。

古代の奈良で始まった薬草利用の歴史の紹介、配置薬販売に使われた昔の道具や衣装などの展示

のほか、様々な生薬の実物展示、薬に関するクイズコーナーや江戸時代の薬作りを体験できるコーナー「薬づくり体験工房」がある。また、約 40 種類の薬草を栽培している「薬草の小径」や日本庭園もあり、立ち寄るハイカーも多いという。



### 近代的生産システムで高品質な三光丸を供給

製剤工場内は、廊下を挟んで配合から混合れんごう、製丸、乾燥、充填、包装まで工程ごとに小部屋で仕切られており、見学者は薬が作られていく工程をガラス越しに見学することができる。工場内の生産設備は、連続式自動充填機などコンパクトながらも最新鋭の機械が揃い、ほとんどの作業がオートメーション化されている。

また、チリやホコリ、細菌が生産段階で混入するのを防ぐため、工場内の空調設備から洗い場や生産に携わる作業者の服装ひとつに至るまで、GMP（Good Manufacturing Practice：製造管理及び品質管理規則）と言われる安全、衛生基準を決め、厳守している。このほか、最新の分析機器をフルに使って、生産段階はもちろん、生薬原料の一つに至るまで入念な理化学試験を行なうとともに、和漢薬の生命とも言える生薬原料の吟味に特に力を入れ、有効成分が分解しないよう、低温倉庫を使用して保管している。

三光丸本店は、古くて新しい胃腸薬「三光丸」の伝統を守り続ける老舗企業として、これからも躍進が期待される。（島田、井阪）